

平成26年度 行政評価の取組結果 (建設局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善				
施策番号・施策名	基本計画の施策を構成する主な事業	主要事業所管課名	事業概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					H26年度		H25年度	人件費 (目安)			H26年度				H28年度 施策の方向性
				指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由および課題	
I-1-(1)-⑥ 地域などと行政の連携・協働による子育て支援の推進	地域に役立つ公園づくり事業	みどり・公園整備課	身近な公園の再整備について、小学校区単位で開催するワークショップで地域住民の意見を聞き、地域ニーズを反映した公園整備を行うことで、これまで以上に利用される公園を目指す。計画段階から地域住民が参加することで公園への愛着を高め、地域活動など公園利用の活性化につなげる。計画策定後は、翌年から概ね2カ年で再整備を行う。	地域に役立つ公園づくり事業による整備公園数	—	目標 35 公園	24 公園	—	175,000	162,235	234,794	6,825	課長 0.05 人	順調	本事業による公園整備を概ね予定どおり行った。また、計画策定に向けたワークショップも予定どおり4校区で実施しており「順調」と判断。なお、H25年度に実施したアンケートでも8割以上から肯定的な回答を得た。	順調	【評価理由】 地域と行政が連携して魅力ある公園づくりを進めるため、整備前にワークショップを行うなど、地域ニーズ等を反映する取組みを実施している。計画策定及びその後の整備とともに予定どおり実施しており、「順調」と判断。  【課題】 地域と行政が連携した魅力ある公園づくりを更に進める必要がある。	今後も継続して、地域と行政が連携した魅力ある公園づくりに取り組む。	
	子どもの安全・成長に配慮した公園整備事業	緑政課	遊具などの公園施設を活用して、子どもが健やかに成長し、また、犯罪等に巻き込まれない安全・安心に配慮した公園となるよう、専門家の意見を聞きながら、公園整備を進める。	子どもの安全・成長に配慮した公園整備事業による整備公園数	—	目標 —	0 公園	—	16,000	17,042	—	3,075	課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.20 人						順調
I-3-(1)-② 教育関係施設の連携による人材の育成	【施策評価のみ】 到津の森公園及び市内教育関係施設の連携による学習プログラムの提供	公園管理課	【施策の内容】 小学生を対象とした、動物や自然とのふれあいを通じて命の大切さや自然環境の保護の必要性を学ぶプログラムの提供	【施策の指標】 「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識が高まった状態	—	目標 —	—	「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識が高まった状態	—	—	—	—	課長 — 人 係長 — 人 職員 — 人	—	—	順調	【評価理由】 到津の森公園が市内の教育関係施設と連携し、小学生及び小学校の教師を対象に学習プログラムの提供を続けている。環境保全意識向上のための機会が提供できており、「順調」と判断。  【課題】 現状に対応した学習内容の見直しが必要。	プログラムの提供を継続するとともに、教科書及び学習指導要領の内容に沿うようプログラムの見直しを図る。	
II-1-(4)-④ 総合的な災害対策の推進	河川改修事業の推進	水環境課	近年、ゲリラ豪雨や都市化の進展に起因する浸水被害が増加している。浸水被害を抑制するため、治水事業の根幹となる河川改修を推進する。	浸水被害の低減	—	目標 —	—	H45年度に河川毎に計画している降雨(1時間で50~70mm程度)に対応できる状態	1,713,000	2,466,532	2,538,604	86,500	課長 1.00 人 係長 1.50 人 職員 8.00 人	順調	事業は予定どおり進捗(河川整備率82%)しており、最終目標の達成に向けては「順調」と判断。	順調	【評価理由】 頻発する局地的豪雨などによる浸水被害を抑制するため、計画的に河川の整備を行っている。事業は予定どおり進捗しているため「順調」と判断。  【課題】 河川改修の完了に向けて、計画的に事業を進める必要がある。	今後も継続して、治水事業の根幹となる河川改修を推進する。	
II-2-(3)-④ 個人の健康づくりを支える環境の整備	健康づくりを支援する公園等整備事業	緑政課	公園に高齢者の健康増進に配慮した健康遊具を設置し、運動教室を開催して、利用者に使い方を説明する。継続的にこの健康遊具を利用することにより、高齢者の体力増進に繋げる。また、ウォーキングを通じた健康づくりをサポートする路面表示などを実施する。	高齢者に配慮した健康遊具の設置公園数	—	目標 2 公園	2 公園	—	48,000	134,933	21,925	3,650	課長 0.10 人 係長 0.10 人 職員 0.20 人	順調	健康づくりを支援する環境整備が進んだ。また、健康教室を実施するなど公園利用も進んでおり「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市民の健康づくりの機運を高めるため、身近な公園における健康遊具の設置など、環境整備が進んだ。また、健康教室を実施するなど公園利用も進んでおり「順調」と判断。  【課題】 高齢者の健康づくりを推進するために、更なる環境整備に取り組む必要がある。	今後も継続して、健康づくりを推進する環境整備に取り組む。	

平成26年度 行政評価の取組結果 (建設局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	基本計画の施策を構成する主な事業	主要事業所管課名	事業概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					H26年度		H25年度		人件費 (目安)			H26年度				H28年度 施策の方向性
				指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由および課題		
Ⅲ-1-(1)-③ まち美化活動の拡充	ボランティアネットワークの推進 (道路サポーター)	道路計画課	市が維持及び管理する道路において、道路清掃・美化などのボランティア活動を行う地域の団体を対象に、清掃用具や花苗の支給などにより支援する。	道路サポーター加入団体数	—	目標 220 団体	225 団体	—	18,262	17,478	13,920	9,400	課長 0.05 人	順調	登録を解除する団体も出ており登録団体数は目標に届かなかったものの、新規登録団体は一定数あり、昨年度に比べると14団体も増加しており、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 高齢化などの理由により解散する団体がある中で、それぞれ新たに結成した団体もあり、昨年度に比べると増加もしくは維持しており、「順調」と判断。  【課題】 解散する団体もあり、総団体数の増加もしくは維持に向けて、団体の維持や新規結成が求められる。	今後も継続して、活動しやすい仕組みづくりや表彰により意欲の向上を図るなど、団体数の増加に努める。		
	ボランティアネットワークの推進 (公園愛護会)	公園管理課	10名以上の地域住民で組織されるボランティア団体で、公園の美化活動・公園施設の点検や禁止行為の連絡・公園利用者のマナーづくり・市民花壇づくりなどを行い、活動面積に応じて活動費を助成している。	公園愛護会の結成数	—	目標 1,160 団体	1,160 団体	—	45,036	43,306	44,446	18,135	課長 0.24 人						順調	会員の減少、高齢化により解散する団体も多い中、団体数は目標を達成しており、「順調」と判断。
	ボランティアネットワークの推進 (河川愛護団体)	水環境課	地域の住民で構成する河川愛護団体に清掃道具購入の費用等となる補助金を交付することにより、美化活動を広げる。また、美化活動に参加することにより、地域の河川を身近に感じ、自分たちの川として愛着を持つような啓発活動へとつなげる。	河川愛護団体数	—	目標 71 団体	68 団体	—	2,610	2,375	2,420	440	課長 0.01 人							
Ⅲ-1-(2)-① 魅力ある生活空間づくり	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり	緑政課	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花や緑を活用する事業である。 花壇 (公共花壇) の整備を行うと共に、市民花壇やスポンサー花壇、うえるっちゃ!花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進する。道路や公園などの緑は、都市景観を印象付けるとともに、快適な生活環境をつくる。また都市景観を印象付け、快適な生活環境をつくる道路などの緑の整備については、植栽場所の生育空間などを考慮した、ゆとりある植栽を行うとともに、適正な維持管理を行うことで健全な緑の育成に努めていく。さらに特別緑地保全地区や保存樹制度を活用し、都市に残された貴重な緑の保全に努めていく。	公共花壇及び市民花壇の面積	44,587㎡ (H21年度)	目標 45,987 ㎡	46,287 ㎡	46,587㎡ (H27年度)	162,043	58,491	112,038	23,150	課長 0.10 人	やや遅れ	市街地の顔となる公共花壇は費用対効果を考慮し配置の見直しを行ったため面積が減少したが、身近な花壇となる市民花壇は維持管理を行う市民団体数、花壇面積は増加しており、市民との協働が進んだ。一方、特別緑地保全地区の買収については土地所有者との交渉は完了しており、H27年度に契約予定であるが、H26年度の買収実績が0であるため、総合的に勘案して、評価は「やや遅れ」と判断。	【評価理由】 魅力ある生活空間をつくるために、街角の花壇整備や地域ニーズを反映した公園づくりを進めた。花壇面積は市が管理する公共花壇の見直しにより目標は達成していないものの、市民花壇等の面積は増加しており市民ボランティア等との協働が進んだ。また、地域ニーズ等を公園整備に反映するための計画策定及びその後の整備ともに予定どおり実施しており、「順調」と判断。	順調	今後も継続して、街角の花壇整備や地域ニーズを反映した公園づくりなど魅力ある生活空間づくりに取り組む。		
				特別緑地保全地区の買収面積	—	目標 2,400 ㎡	5,000 ㎡						—						職員 2.00 人	
	地域に役立つ公園づくり事業	みどり・公園整備課	身近な公園の再整備について、小学校区単位で開催するワークショップで地域住民の意見を聞き、地域ニーズを反映した公園整備を行うことで、これまで以上に利用される公園を目指す。計画段階から地域住民が参加することで公園への愛着を高め、地域活動など公園利用の活性化につなげる。計画策定後は、翌年から概ね2カ年で再整備を行う。	地域に役立つ公園づくり事業による整備公園数	—	目標 35 公園	24 公園	—	175,000	162,235	234,794	6,825	課長 0.05 人	順調	本事業における公園整備を概ね予定どおり行った。また、計画策定に向けたワークショップも予定どおり4校区で実施しており「順調」と判断。なお、H25年度に実施したアンケートでも8割以上から肯定的な回答を得た。	【課題】 魅力ある生活空間づくりをさらに進める必要がある。				
実績 38 公園	24 公園	—	係長 0.10 人																	
達成率 108.6 %	100.0 %	—	職員 0.70 人																	

平成26年度 行政評価の取組結果 (建設局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	基本計画の施策を構成する主な事業	主要事業所管課名	事業概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					H26年度			H25年度			人件費 (目安)			H26年度				H28年度 施策の方向性
				指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由および課題				
Ⅲ-1-(2)-③ 市民に親しまれる水際線・農山村風景づくり	身近に自然を感じる河川整備事業	水環境課	これまでの河川事業は治水整備を中心に行われてきた。このため、生物の生息・生育環境などへの配慮が不足し、河川は人工的な水路ようになってしまった。そこで、都市内に唯一残された貴重な自然空間である河川を、水際の植生や自然な流れの復元などにより、生物の生息・生育環境に配慮した整備を行うことにより、ホタルの飛翔や緑の増加など、身近に自然を感じる水辺環境整備事業を行っている。	環境に配慮した護岸整備	—	目標	—	—	生態系に配慮した整備を行うことで、自然を身近に感じる状態	381,000	724,800	838,590	25,750	課長	0.50	順調	当初目標の整備延長を達成しており、環境に配慮した護岸整備は進んでいるため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市民に親しまれる水際線づくりを進めるため、環境に配慮した護岸整備を実施した。整備延長は予定以上に進捗しており、順調と判断。 【課題】 治水面と環境面のバランスを取る必要がある。	今後も限られた敷地の中で、最大限生態系に配慮した整備を行う。		
						実績	—	—						係長	0.50							
						達成率	—	—						職員	2.00							
Ⅲ-1-(3)-② 安心して通行できる身近な道路の整備	バリアフリーのまちづくり	道路計画課	高齢者や障害者など、誰もが安全で快適に通行できるよう、道路・公園のバリアフリー化を行い、バリアフリーのまちづくりを進める。具体的には、歩道の新設や拡幅、段差解消、視覚障害者誘導用ブロックの設置などのバリアフリー化を行う。	主要駅周辺地区の主要経路の整備率	—	目標	88 %	89 %	—	1,193,630	1,007,204	983,128	26,150	課長	0.10	順調	関係団体と協議を行いながら計画的に整備を行っており、整備率も予定どおり進捗しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 関係団体と協議を行いながらのバリアフリー化や、通学路の改善要望に対応するなど、高齢者や子どもなどが安心して通行できる環境が向上しており、「順調」と判断。 【課題】 バリアフリーのハード整備とあわせて、今後はバリアフリーの取り組みの周知など、ソフト的な施策の充実を図ることが重要。	本市における高齢化率は、全国平均を大きく上回るとともに、他の政令指定都市と比べ最も高く、高齢化が急速に進展している。少子高齢化社会を先取りする先進的な取り組みが求められる中でバリアフリー化の推進は必要不可欠であり、着実な取り組みを継続する。また、児童の安全・安心な通学路環境の整備は、交通安全事業において最も重要な施策であり、引き続き、対策に取り組んでいく。		
						実績	88 %	89 %						係長	1.00							
						達成率	100.0 %	100.0 %						職員	2.00							
	通学路の安全対策	道路計画課	登下校中の児童が交通事故に巻き込まれず、安全に安心して通学できる環境を整えるため、教育委員会や学校関係者、警察と一体となって、さらなる通学路の安全対策を推進する。	通学路の危険箇所における対策完了箇所数	—	目標	—	—	—	805,000	503,084	562,425	26,150	課長	0.10	順調	学校からの改善要望箇所について、対応可能な箇所の対策を鋭意進めており、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 関係団体と協議を行いながらのバリアフリー化や、通学路の改善要望に対応するなど、高齢者や子どもなどが安心して通行できる環境が向上しており、「順調」と判断。 【課題】 バリアフリーのハード整備とあわせて、今後はバリアフリーの取り組みの周知など、ソフト的な施策の充実を図ることが重要。	本市における高齢化率は、全国平均を大きく上回るとともに、他の政令指定都市と比べ最も高く、高齢化が急速に進展している。少子高齢化社会を先取りする先進的な取り組みが求められる中でバリアフリー化の推進は必要不可欠であり、着実な取り組みを継続する。また、児童の安全・安心な通学路環境の整備は、交通安全事業において最も重要な施策であり、引き続き、対策に取り組んでいく。		
						実績	165 箇所	82 箇所						係長	1.00							
						達成率	—	—						職員	2.00							
Ⅴ-1-(2)-① 都心のにぎわいづくり	小倉駅・黒崎駅前の賑わいづくりの推進	道路計画課	北九州市の玄関口となる小倉都心部と黒崎副都心部の駅前において、魅力的な都市環境の創造につながる道路環境整備を行い、まちの賑わいを推進する。	歩いてみたくなる歩行空間を創出	—	目標	—	—	歩いてみたくなる歩行空間の創出	819,000	1,276,378	426,173	61,500	課長	1.00	順調	小倉駅南北自由通路のリニューアルは予定どおり進捗しており、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 都心のにぎわいづくりのために、小倉駅南北自由通路のリニューアル及び旦過地区まちづくり整備計画の策定を実施した。事業は予定どおり進捗しており、「順調」と判断。 【課題】 都心のにぎわい創出に向け、継続した取り組みが必要。	引き続き、計画的な事業実施に努める。		
						実績	—	—						係長	2.00							
						達成率	—	—						職員	4.00							
	旦過地区まちづくりに資する河川整備事業	河川整備課	長年市民に親しまれている旦過市場をさらに魅力ある商業拠点とするために、地元と協働で旦過地区まちづくり整備計画を策定し、神嶽川の治水安全度を高める、河川事業を推進する。	神嶽川(旦過地区)の治水安全度向上	—	目標	—	—	概ね50年に一度発生する降雨にも対応できるよう、神嶽川(旦過地区)の治水安全度向上	57,000	20,682	—	15,950	課長	0.30	順調	旦過地区まちづくり整備計画の策定に向け、関係者による「旦過地区まちづくり整備計画(素案)検討委員会」を設立した。整備計画の5つの案を示しており、予定どおり進捗したため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 副都心のにぎわいづくりのために、黒崎駅南北自由通路及び黒崎ヘストリアンデ・ツルツルを整備した。事業は予定どおり進捗しており、「順調」と判断。 【課題】 引き続き、副都心のにぎわい創出に向けた取り組みが必要。	引き続き、計画的な事業実施に努める。		
						実績	—	—						係長	0.50							
						達成率	—	—						職員	1.00							
Ⅴ-1-(2)-② 文化・交流、居住機能を重視した副都心づくり	小倉駅・黒崎駅前の賑わいづくりの推進	道路計画課	北九州市の玄関口となる小倉都心部と黒崎副都心部の駅前において、魅力的な都市環境の創造につながる道路環境整備を行い、まちの賑わいを推進する。	黒崎駅南北自由通路利用者数	4,500人/日(H24年度)	目標	—	—	H30年度にH24年度比約2,000人/日増	819,000	1,276,378	426,173	61,500	課長	1.00	順調	黒崎駅南北自由通路及び黒崎ヘストリアンデ・ツルツルの事業進捗率は、概ね計画通りのため、「順調」と判断	順調	【評価理由】 副都心のにぎわいづくりのために、黒崎駅南北自由通路及び黒崎ヘストリアンデ・ツルツルを整備した。事業は予定どおり進捗しており、「順調」と判断。 【課題】 引き続き、副都心のにぎわい創出に向けた取り組みが必要。	引き続き、計画的な事業実施に努める。		
						実績	—	—						係長	2.00							
						達成率	—	—						職員	4.00							

平成26年度 行政評価の取組結果 (建設局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	基本計画の施策を構成する主な事業	主要事業所管課名	事業概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					H26年度		H25年度		人件費 (目安)			H26年度				H28年度 施策の方向性
				指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	中期目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題		
V-2-(2)-① 広域物流ネットワークの強化	自動車専用道路ネットワークの整備	道路計画課	港湾・空港・鉄道ターミナルなど、拠点間を結ぶ交通・物流ネットワークの構築や地域間の連携・交流促進を図るため、環状放射型自動車専用道路ネットワークの整備を推進する。	朝ピーク時の響灘地区～東田地区間の所要時間	43分 (H21年度)	目標	—	—	13分 (H39年度)	1,767,867	1,915,708	390,176	69,000	課長	1.00 人	順調	戸畑枝光線の事業進捗率は計画通りのため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 広域物流ネットワークの強化に向けた交通網の整備を実施した。戸畑枝光線をはじめ、主要な道路の事業進捗は計画通り行われており、順調と判断。  【課題】 最終目標達成に向けて、引き続き、道路整備を進める必要がある。	今後も計画的に主要な道路整備を進める。
					実績	—	—	係長						2.00 人						
					達成率	—	—	職員						5.00 人						
	主要な道路の整備 (恒見朽網線など)	道路計画課	主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備することで、市内の渋滞対策、物流ネットワークの強化、地域間の連携・交流促進を図る。	新門司地区～北九州空港間の所要時間	36分 (H21年度)	目標	—	—	28分 (H37年度)	6,302,557	8,711,899	8,184,647	217,250	課長	3.00 人	順調	今年度の主要な道路の完成延長は、目標値を達成しており、「順調」と判断。	順調	【課題】 最終目標達成に向けて、引き続き、道路整備を進める必要がある。	
					実績	—	—	係長						6.50 人						
					達成率	—	—	職員						15.70 人						
V-2-(2)-② 市民の交通利便性の向上と産業活動の支援	自動車専用道路ネットワークの整備	道路計画課	港湾・空港・鉄道ターミナルなど、拠点間を結ぶ交通・物流ネットワークの構築や地域間の連携・交流促進を図るため、環状放射型自動車専用道路ネットワークの整備を推進する。	朝ピーク時の響灘地区～東田地区間の所要時間	43分 (H21年度)	目標	—	—	13分 (H39年度)	1,767,867	1,915,708	390,176	69,000	課長	1.00 人	順調	戸畑枝光線の事業進捗率は計画通りのため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市民の交通利便性の向上と産業の支援に向けた道路整備を実施した。戸畑枝光線をはじめ、主要な道路の事業進捗は計画通り行われており、順調と判断。  【課題】 最終目標達成に向けて、引き続き、道路整備を進める必要がある。	今後も計画的に主要な道路整備を進める。
					実績	—	—	係長						2.00 人						
					達成率	—	—	職員						5.00 人						
	主要な道路の整備 (恒見朽網線など)	道路計画課	主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備することで、市内の渋滞対策、物流ネットワークの強化、地域間の連携・交流促進を図る。	新門司地区～北九州空港間の所要時間	36分 (H21年度)	目標	—	—	28分 (H37年度)	6,302,557	8,711,899	8,184,647	217,250	課長	3.00 人	順調	今年度の主要な道路の完成延長は、目標値を達成しており、「順調」と判断。	順調	【課題】 最終目標達成に向けて、引き続き、道路整備を進める必要がある。	
					実績	—	—	係長						6.50 人						
					達成率	—	—	職員						15.70 人						
V-3-(1)-② 都市基盤・施設の適正な維持管理	都市モノレール長寿命化事業 (道路・街路)	道路維持課	北九州モノレールは、昭和60年に開業後、約30年が経過しており、軌道桁やそれを支える支柱等について、経年的な劣化が見られる。このため、劣化対策 (耐震対策も含む) を行い、桁や支柱等、構造物の長寿命化や維持管理費の縮減を図り、市民の重要な交通機関であるモノレールの安全性・信頼性の確保を図る。	インフラ構造物の長寿命化を実施することで、モノレールの安全・安心な運行を確保	—	目標	—	—	完了 (H33年度)	1,015,400	1,021,620	1,164,685	57,375	課長	0.75 人	順調	モノレールの軌道桁や支柱の耐震対策、劣化対策を概ね予定通りに実施しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 モノレール、橋梁、トンネルといった都市基盤の長寿命化対策は概ね計画通り進捗しており、「順調」と判断。  【課題】 引き続き、計画に沿って長寿命化対策を実施する必要がある。	引き続き、計画に沿って長寿命化対策を実施する。
					実績	—	—	係長						1.50 人						
					達成率	—	—	職員						4.50 人						
	橋梁・トンネルの長寿命化への計画的な取り組み	道路維持課	市内には、約2,000の橋梁と42本のトンネルがあり、これら多くの多くは高度経済成長期以降に建設されたもので高齢化・老朽化の進展が懸念されている。そこで、長期的視点にたち効率的・効果的に管理するアセットマネジメントの考え方を取り入れ、従来の悪くなったら補修する対症療法型を改め、計画的に手を入れて長持ちさせる予防保全型に移行するため、「北九州市橋梁長寿命化修繕計画」(H22.3)及び「北九州市トンネル長寿命化修繕計画」(H25.2)を策定した。本事業は、この計画をもとに、予防保全が有効な状態である健全度Ⅲ以上の橋梁とトンネルを増加させることで市民の安全・安心を確保する。	主要橋梁の健全度向上による市民の安全・安心の確保	—	全主要橋梁の健全度Ⅲ以上 (H31年度)	目標	—	—	2,547,100	2,326,551	2,745,387	100,150	課長	1.10 人	順調	橋梁・トンネルのリニューアル工事については、概ね計画通り進捗しており、「順調」と判断。	順調	【課題】 引き続き、計画に沿って長寿命化対策を実施する必要がある。	引き続き、計画に沿って長寿命化対策を実施する。
						実績	—	—	係長					2.00 人						
						達成率	—	—	職員					9.00 人						
橋梁・トンネルの長寿命化への計画的な取り組み	道路維持課	トンネルの健全度向上による市民の安全・安心の確保	—	—	全トンネルの健全度Ⅲ以上 (H33年度)	目標	—	—	2,547,100	2,326,551	2,745,387	100,150	課長	1.10 人	順調	橋梁・トンネルのリニューアル工事については、概ね計画通り進捗しており、「順調」と判断。	順調	【課題】 引き続き、計画に沿って長寿命化対策を実施する必要がある。	引き続き、計画に沿って長寿命化対策を実施する。	
					実績	—	—	係長					2.00 人							
					達成率	—	—	職員					9.00 人							

平成26年度 行政評価の取組結果 (建設局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	基本計画の施策を構成する主な事業	主要事業所管課名	事業概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					H26年度			H25年度			人件費 (目安)			H26年度				H28年度 施策の方向性
				指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	中期目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由および課題				
VI-1-(2)-② あらゆる主体による環境政策への参加の推進	長野緑地を利用した農業体験教室	公園管理課	計画地内に複数の活動エリアを設け、一年を通してそれぞれのエリアで有機農業栽培管理や花作りを体験する市民参加による農地等の整備、管理等に取り組む。また、子どもたちが自然の中で遊び、学ぶ場を提供したり、収穫物を使用したイベントなど、市民の参加を拡大するイベント等を開催する。	農業体験教室への参加者数	—	目標 2,000 人	2,000 人	2,000人 (毎年度)	2,600	2,674	2,600	1,120	課長 0.03 人	大変順調	参加者数が目標を大幅に超えて達成していることから、「大変順調」と判断。	大変順調	【評価理由】 農業体験をおとした環境政策への市民参加を進めている。今年度も多くの市民参加があり、「大変順調」と判断。  【課題】 今後も継続した取組みが求められる。	今後も継続して、農業体験教室を実施する。				
実績	2,243 人	2,447 人	2,000人 (毎年度)	2,600	2,674	2,600	1,120	係長 0.04 人														
達成率	112.2 %	122.4 %	2,000人 (毎年度)	2,600	2,674	2,600	1,120	職員 0.05 人														
VI-2-(1)-③ 総合的な緑化・森林整備の実施	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり	緑政課	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花や緑を活用する事業である。花壇（公共花壇）の整備を行うと共に、市民花壇やポンスー花壇、うえるっちゃん花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進する。道路や公園などの緑は、都市景観を印象付けるとともに、快適な生活環境をつくる。また都市景観を印象付け、快適な生活環境をつくる道路などの緑の整備については、植栽場所の生育空間などを考慮した、ゆとりある植栽を行うとともに、適正な維持管理を行うことで健全な緑の育成に努めていく。さらに特別緑地保全地区制度や保存樹制度を活用し、都市に残された貴重な緑の保全に努めていく。	公共花壇及び市民花壇の面積	44,587㎡ (H21年度)	目標 45,987 ㎡	46,287 ㎡	46,587㎡ (H27年度)	162,043	58,491	112,038	23,150	課長 0.10 人	やや遅れ	市街地の顔となる公共花壇は費用対効果を考慮し配置の見直しを行ったため面積が減少したが、身近な花壇となる市民花壇は維持管理を行う市民団体数、花壇面積は増加しており、市民との協働が進んだ。一方、特別緑地保全地区の買収については土地所有者との交渉は完了しており、H27年度に契約予定であるが、H26年度の買収実績が0であるため、総合的に勘案して、評価は「やや遅れ」と判断。	やや遅れ	【評価理由】 総合的な緑化を進めるため、街角の花壇整備を進めた。花壇面積は市が管理する公共花壇の見直しにより目標は達成していないものの、市民花壇等の面積は増加しており市民ボランティア等との協働が進んだ。一方で、特別緑地保全地区の買収については目標達成に一定の目途はついているものの、買収実績が0であった。これらを総合的に勘案して、評価は「やや遅れ」と判断。  【課題】 今後も継続して総合的な緑化の取組みが求められる。	今後も継続して、街角の花壇整備など総合的な緑化を進める。				
				実績	44,693 ㎡	44,965 ㎡	46,587㎡ (H27年度)	23,150					係長 0.70 人									
				達成率	97.2 %	97.1 %	46,587㎡ (H27年度)	23,150					職員 2.00 人									
				特別緑地保全地区の買収面積	—	目標 2,400 ㎡	5,000 ㎡	—					23,150						係長 0.70 人			
実績	2,572 ㎡	0 ㎡	—	23,150	職員 2.00 人																	
達成率	107.2 %	0.0 %	—	23,150	職員 2.00 人																	
VI-4-(1)-② 身近に自然を感じる都市づくり	身近に自然を感じる河川整備事業	水環境課	これまでの河川事業は治水整備を中心に行われてきた。このため、生物の生息・生育環境などへの配慮が不足し、河川は人工的な水路のようになってしまった。そこで、都市内に唯一残された貴重な自然空間である河川を、水際の植生や自然な流れの復元などにより、生物の生息・生育環境に配慮した整備を行うことによって、ホタルの飛翔や緑の増加など、身近に自然を感じる水辺環境整備事業を行っている。	環境に配慮した護岸整備	—	目標 —	—	生態系に配慮した整備を行うことで、自然を身近に感じる状態	381,000	724,800	838,590	25,750	課長 0.50 人	順調	当初目標の整備延長を達成しており、環境に配慮した護岸整備は進んでいるため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市民に親しまれる水際線づくりを進めるため、環境に配慮した護岸整備を実施した。整備延長は予定以上に進捗しており、順調と判断。  【課題】 治水面と環境面のバランスを取る必要がある。	今後も限られた敷地の中で、最大限生態系に配慮した整備を行う。				
実績	—	—	—	25,750	係長 0.50 人																	
達成率	—	—	—	25,750	職員 2.00 人																	

